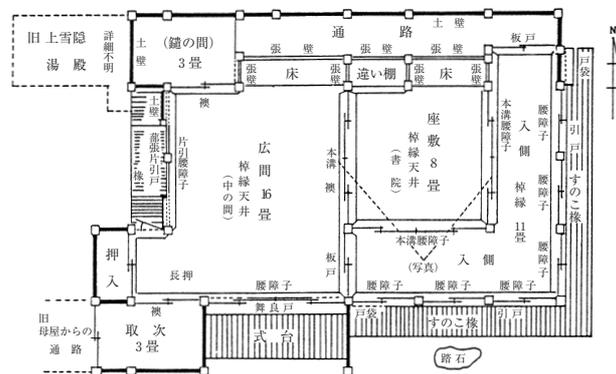
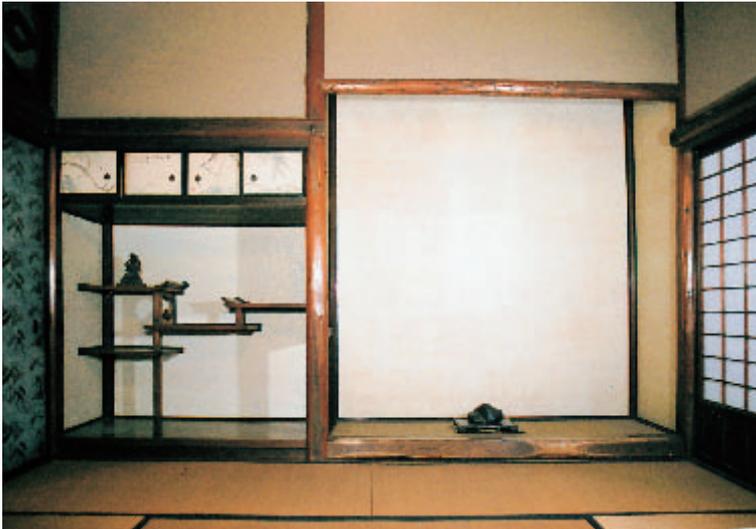


23 いでけざしき 井出家座敷



井出家座敷間取図

指定 県 宝 昭和50年7月21日
 所在地 白 田
 所有者 井 出 温

井出家は江戸時代初期にこの地の名主を勤め、その後名主役をやめてからも、代官巡視の際、宿泊所にあてられた旧家といわれてきた。

木造平屋建・切妻造・銅板葺（平成3年〈1991〉瓦葺きを銅板葺きに葺き替え）建坪約90㎡余の座敷が県宝に指定されている。

座敷は、代官の宿泊を主な目的として建築されたものと考えられ、建築年代については、井出家の伝承によると元禄年間（1688～1703）の建造となっているが、それを裏づける棟札や記録等は発見されていない。様式からみてそれよりわずかにくんだり、江戸時代の中期にあたる18世紀前期頃に建てられたものと推定されている。

座敷の間取りは、畳廊下をめぐらした8畳の間と、16畳の次の間を中心にして、表側に式台と取り次ぎの間、裏側には3畳の小部屋と廊下を設けている。

内部の意匠は、茶室の手法をまじえた書院造りで、普通数奇屋づくりと呼ばれる様式に属し、皮つき柱・長押・竿縁天井などが用いられている。特に違い棚や欄間等に洗練された意匠をみることができ、簡素で清楚な造りは、県下でも類例の少ない座敷である。

また、建築後長年月よく当初のままに保持された貴重な建造物である。